

高松の郵は先かしました。りつしかう三度へ行つたり、
 もういふ高松の甲伴と自命で行かれちうのいずれをやら
 たり、親甲といりまされてさうさあそくちりました、時
 のふはそれとなく細にきいて見るところ、ちうが市部屋のや
 うにはちうさうもちいさうです、親父い一人、金持で、東
 家、ちう何のかりたいといふ人物かぬます、この親父まゐの
 決心をいさるうのか、今の近所ではつきりしてゐませんか、
 若しその人のあふたはかるとすれば、ちうかのちういふか
 と思はれます、いづれいふまであかれます、ちう、その所
 ちうかかります、
 いふところ。

三山正太郎

木

神山

山

紙

八月

福島縣二本松市

西一のイセハ

神山

山